

# 令和4年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立越ヶ谷高等学校 全日制の課程)

目指す学校像	「知・徳・体」の調和がとれた社会の発展に貢献するリーダーの育成
--------	---------------------------------

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 学習支援及び進路指導体制の充実、国公立大学合格者50名以上 2 学習指導要領を踏まえた、アクティブラーニングの推進、学習評価の研究及びグローバル化に伴う発信力の向上 3 タブレット端末の導入による授業等のICT化の推進 4 規範意識及びマナー意識の高揚と部活動・学校行事を通じた人づくり 5 地域・保護者との連携・協力の強化
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(月日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○入学時の国公立大学への今年・昨年の希望者が172名(47.6%)・188名(58.2%)である一方、今年・昨年の国公立大学合格者が37名・48名であった。 学校行事や部活動等にしっかり取り組ませた上で、希望を達成するためには、一層の授業の充実、学習量の確保、生徒・保護者の進路意識の高揚、一人一人に即した弱点の克服、志望校を最後まであきらめさせないこと等が必要である。	○担任・学年・進路指導部等が一体となり、生徒個々の実情に応じて、組織的にサポートする。 ○発達段階に即して生徒の志や進路意識を高揚させるとともに、保護者が大学動向等を理解できるようにする。	○スタディサプリ・iPad利用による実態に即した質・量の課題を配信するとともに、定期考査や模試の振り返り等を実施させる。	○「本校が学習指導に力を入れていて、学習習慣が身についたと思う」生徒の割合が80%以上であるか。(昨年73%)			
			○時宜にかなった生徒対象の進路講演会・進路行事等を実施する。 ○保護者対象の進路講演会・大学見学会等を実施する。	○「進路についての説明や講演、模擬試験の実施や活用、生徒と教師の進路相談が充実していると思う」生徒・保護者がともに90%以上であるか。(昨年：生徒91%、保護者83%)			
2	○新1年次生から新学習要領の教育課程が開始となる。これまで積み重ねてきた協調学習等をはじめとする主体的対話的な授業を一層充実して思考力・判断力・表現力を育成する。 あわせて観点別学習状況評価を実施・改善して、生徒・保護者に説明責任を果たす。	○本校生徒に必要な学力を育成する教科書を選定し、内容に応じた主体的・対話的な授業を充実する。 ○生徒の実態に即した観点別学習状況評価を、不断に改善して適切に実施する。	○選定理由書や学校設定科目等が適正な内容となるよう修正・改善する。 ○観点別学習状況評価を作成・改善する過程で、教科会等で思考力・判断力・表現力をさらに伸ばすための授業改善を行う。	○「授業は、わかりやすく満足している。」生徒の割合と、「授業は、わかりやすく満足いくと思う。」保護者の割合が、ともに80%以上であるか。(昨年：生徒78%、保護者77%)			
			○学習指導計画書や評価計画書等を活用する。 ○校務支援システムの再構築、入力方法の確認とチェックを徹底する。	○ミス等がなく通知票を配布し、通知票等に対する疑問や苦情等がなかったか。			
3	○新1年次生にiPadを導入したこと等から、ICT図書部を新設した。ICTを効果的に活用する教材・教具の研究や、授業改善を進めることが課題である。	○教科・科目特性に即したアプリ等を効果的に活用するとともに、生徒が主体的・効率的に学習できるようにする。	○授業研究週間でICTを活用した教材・教具を発表し協議し合う等、研究を進める。 ○実験やグループ活動等の進め方等を工夫して、深く学び合えるようにする。	○「本校のICTの活用について、満足している。」生徒の割合が70%以上であるか。(昨年65%)			
4	○成人年齢18歳引き下げに伴いトラブルを回避させるとともに、高い規範意識やマナー意識の下、社会の構成員として安心・安全な社会を構築する意識を高める必要がある。 また、コロナ禍において、部活動・学校行事に主体的・組織的に取り組ませることが必要である。	○生徒が適切に状況を判断しながら適正に自己決定でき、法律の下積極的に社会参加ができるようにする。 ○生徒が充実感や人間的成長を感じられ、自信やリーダーシップを醸成できる取組にする。	○年度当初をはじめ定期的に通学路に向き状況に応じた指導を行う。 ○総合的な探究の時間、学校行事等を通じて社会への参画意識を高めていく。	○「服装、言葉遣い、ルールを守る等の規律ある生活習慣を身に付けている。」生徒の割合が98%以上であるか。(昨年97%)			
			○3年間を見通して中長期・短期の計画を立てる。 ○コロナ禍で健康管理や感染防止策を徹底して行う。	○「部活動が充実していて、人間的成長に役立っている。」と思う生徒の割合が、90%を超えているか。(昨年90%) ○「学校行事が充実していて、人間的成長に役立っている。」と思う生徒の割合が、90%を超えているか。(昨年86%)			
5	○入試では全体的に公立離れの傾向にあることから、生徒急減期に向けた生徒募集体制を強化する必要がある。 また、3年後に控えた100周年記念事業に向け情報収集し、PTA・後援会、同窓会等との連携の下、共通理解を図る必要がある。	○中学生・保護者のニーズに即した計画的・組織的な生徒募集を実施する。 ○収集した情報を共通理解し、具体的スケジュールを協議する。	○全校体制で学校説明会を実施する。また、中学校の保護者バス見学会を積極的に受け入れる。 ○管理職・PTA・後援会・同窓会等の四者で飯能高校100周年記念式典等を視察する。	○昨年度と同等の一般募集の競争率を確保できたか。(昨年：1.34) ○具体的なスケジュールが作成できたか。			

学校関係者評価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	